

令和3年(2021年)3月19日

入学予定者の保護者 様  
入学予定者 様

長野県中野西高等学校長 宮原 弘匡  
中野西高等学校 新1学年

## 学習用1人1台タブレット(iPad)の導入について

文部科学省から GIGA スクール構想が打ち出され、今年度、近隣市町村の小・中学校は1人1台のタブレットが整備されました。中学生がタブレットを使って進学してくる状況の中で、高校現場では3人に1台しか配置できず、中学でできた学びが高校ではできないのが現状です。Society5.0時代に生きる生徒たちにとって、デジタル端末は鉛筆やノートと並ぶ学習における必需品と言えます。タブレットを使った新しい学びを高校でも継続するために、令和3年度の新入生から、授業やHR活動、総合的な探究の時間など学校のあらゆる教育活動において、安全かつ確実に使える学習ツールとして、生徒1人1台、同等の性能のiPadを一括導入することといたしました。

仕事でも家庭でも、社会のあらゆる場所でICTの活用が日常のものとなっている状況と環境が大きく変化する中で、生徒たちが変化を前向きに受け止め、豊かな創造性を備え、持続可能な社会の創り手として、予測不可能な未来社会を自律的に生き、社会の形成に参画するための資質・能力を一層確実に育成してまいりたいと存じます。生徒たちがICTを適切・安全に使いこなすことができるようネットリテラシーなどの情報活用能力を育成することはもちろんのこと、ICTを活用することで学習効率を上げることやこれからの時代に求められるITに強い生徒を育てることができます。

高校入学を機にスマートフォンを契約されたご家庭が多いかと思いますが、臨時休業中のオンライン授業対応ではスマートフォンは画面が小さく、長時間の学習には不向きな面がございました。学習ツールとして学習効率を上げるためには個人所有による端末(BYOD)が必要であり、県教育委員会でもBYODによる1人1台端末を検討している

ことが先日報道されました。本校では、セルラーモデルの iPad を選択し、安定した回線を確保し、生徒の学ぶ力を最大限に発揮することのできる KDDI 株式会社のシステムを採用することとしました。iPad を選んだ理由は近隣の中学校の 1 人 1 台タブレットで導入され、直感的な操作性に優れており、本校で採用するアプリケーションとの互換性が高く、高い教育効果が期待できることや故障のリスクが他のタブレット端末に比べて低いことがあげられます。また、KDDI のシステムを選んだのは①iPad の導入とすでに導入校で効果的な運用実績がある点、②SMSM というサービスにより、タブレット端末を一括管理することが可能である点、③Wi-Fi モデルでは学校において「文具」としての使用自体が困難な点、④故障や盗難などの事故対応も保証されている点、⑤校外学習での使用による学習効果が期待できる点があげられます。

以上のような点を総合して、教育現場で効果的に安全・安心して端末利用でき実績のある KDDI 株式会社と通信契約を結ぶことにしました。通信料、端末代金、初期設定費用等すべて含めて 3 年間で月 3000 円程の契約となります。3 年後(卒業時)にはもちろん、iPad が生徒の個人のものになります。保護者の皆様にはタブレット端末関連の費用が学校徴収金に加わり、新たな経済的なご負担をおかけしますが、無理のない学校徴収金の徴収方法や 3 年間で使用する教材の精査など可能な配慮を行う予定です。コロナ禍で収入減のご家庭がある中で、唐突なお願いであることは重々承知をしておりますが、生徒の新しい有意義な学習活動ができるよう教職員がタブレット端末の有効活用の研修に努め、学校として新しい時代の新しい学びを実践してまいりますので、ぜひ、ご理解とご協力をいただきたくお願い申し上げます。別紙に具体的な資料を示しましたので、ご参照いただき、不明な点やご質問等がございましたら、担当までお問い合わせください。

長野県中野西高等学校

教頭 宮尾 久枝

担当 原澤 徹(新 1 学年)

電話 0269-22-7611